

# 新発見された日清戦争後の 大連旅順、大連金州、大連湾、海城、威海から 日本へ流出した文物の概要報告

\_\_日露戦争後に日本へ流出した唐の鴻臚井碑をめぐる議論も兼ねて

---

報告者: 姬 巍 (Ji Wei)  
役職: 大連714ボランティア会 兼 鴻臚書庫 発起人  
/ 上海大学 中国海外文物研究中心 非常勤研究員

# 日清戦争・日露戦争期に日本へ流出した文化財一覧



番号	文物名称	現所在地	元所在地	流出時期
1	金州城北門（金州鎧門）	日本の皇宮（振天府）	金州城北門（永安門門洞）	1895年
2	海軍役場の旗竿	日本の皇宮（振天府）	山東威海劉公島北洋海軍公所門前	1895年
3	海城の4つの城門の石版	日本の皇宮 （振天府有光亭）	海城城門楼（鎮武門、広威門、臨清門、来遠門）	1895年
4	大連湾和尚島砲台石版	日本の皇宮 （振天府有光亭）	大連湾和尚島	1895年
5	“震出東方”の石の扁額	日本の靖国神社	旅順老蛎嘴砲台	1895年
6	海軍公所の額	日本の靖国神社	旅順北洋水師海軍公所	1895年
7*	石獅子	日本の靖国神社鳥居	海城三学寺	1895年
8*	唐鴻臚井碑/亭	日本の皇宮（建安府）	旅順黄金山	1908年

注記：『\*』印は以前に発見されたもの





# 日清戦争時に流出した 文化財が新たに発見される

- ◆ 金州城北門の扉（金州鎧門）
  - ◆ 海軍公所旗竿
  - ◆ 海城の4つの城門の石版
  - ◆ 大連湾和尚島砲台石版
  - ◆ 「震出東方」石版
  - ◆ 海軍公所の額
-

01

# 金州城北門の扉（金州鎧門）

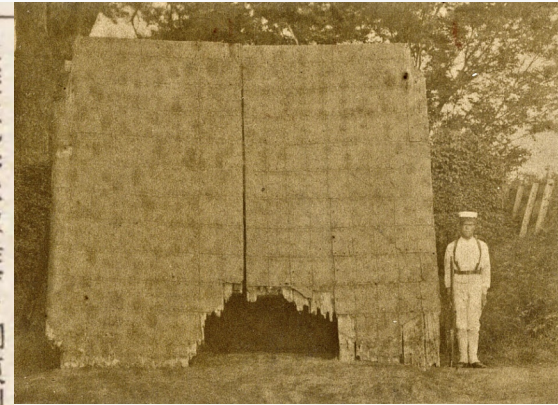
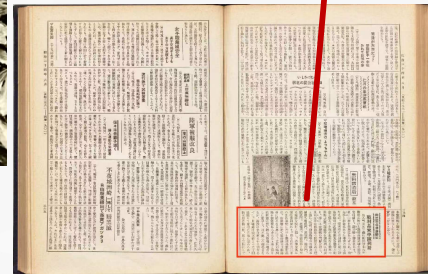
現所在地：日本の皇宮（振天府）



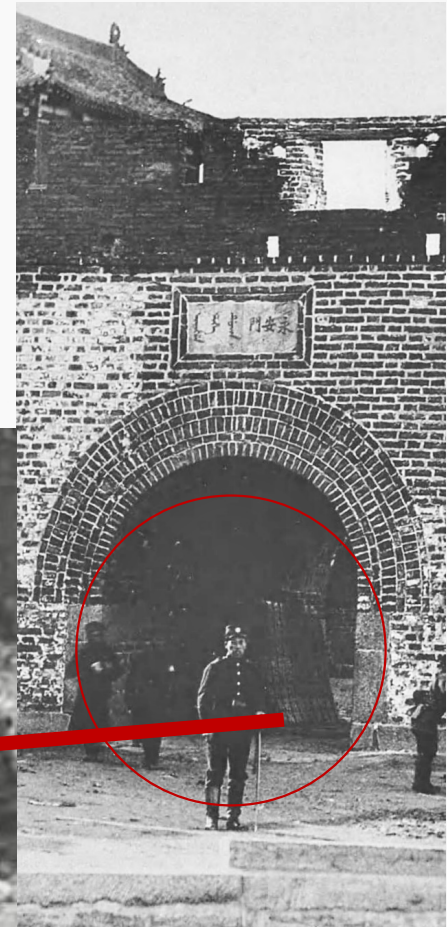
1894年の日清戦争（甲午戦争）後に日本に持ち去られた金州城北門の扉は、現在、日本の皇居にある振天府に保管されています。

報告者：姫巍

服装、武器、寫眞等を御陳列に相成り、扉には金州城の門扉を附し、又有光亭は威海衛の防材を以て柱と爲し、海城、和尚島等の石額及石扉即ち廣威門、來遠門、臨清門、鎮武門、老龍門、和尚島等と刻せる額扉を壁石と爲し、吾妻屋風に



元の場所：金州城北門（永安門門洞）



出典：『新聞集成明治編年史』



02

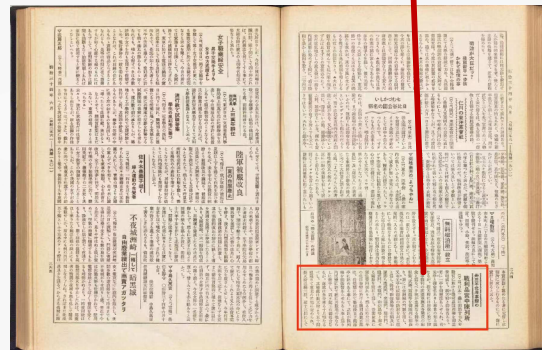
## 海軍役場の旗竿



現所在地：日本の皇居（振天府）

1895年の日清戦争（甲午戦争）の際に日本によって略奪された、山東省威海・劉公島の北洋海軍公所（海軍基地の司令部）の門前にあった旗竿は、現在、日本の皇居にある振天府に収蔵されています。

服装、武器、寫眞等を御陳列に相成り、扉には金洲城の門扉を附し、  
又有光亭は威海衛の防材を以て柱  
と爲し、海城、和尚島等の石額及石  
扉即ち廣威門、來遠門、臨清門、  
鎮武門、老龍門、和尚島等と刻せ  
る額扉を壁石と爲し、吾妻屋風に  
御造營相成れり。然るに昨卅三年



元の場所：  
山東威海劉公島北洋海軍公所門前

報告者：劉勇

出典：『新聞集成明治編年史』



03

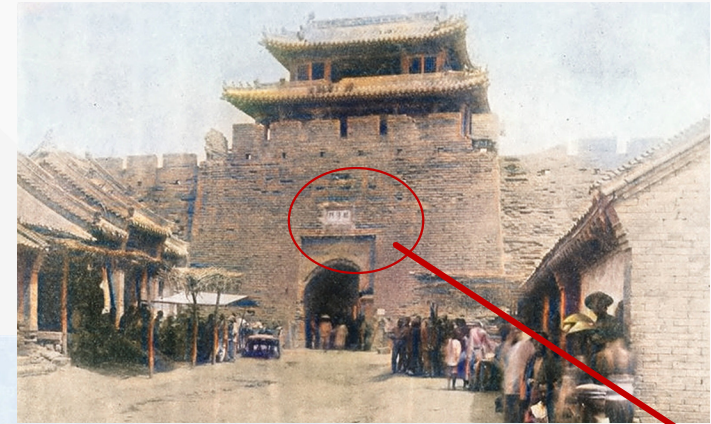
## 海城の4つの城門の石版

現所在地：日本の皇宮（振天府有光亭）



報告者：劉勇

1895年の日清戦争（甲午戦争）の際、旧日本軍によって海城から略奪された四つの城門の石の扁額（鎮武門、広威門、臨清門、来遠門）は、現在、日本の皇居内の振天府にある有光亭に所蔵されています。（参考写真：鎮武門と広威門）



臨清門



鎮武門

元の場所：海城城門楼（鎮武門、広威門、臨清門、来遠門）



# 海城城門現在地衛星地図



日清戦争（1894年）後に日本が略奪した海城の城門は、現在、日本の皇居内の衛星写真上の位置に現存しています。



日本皇宮振天府有光亭

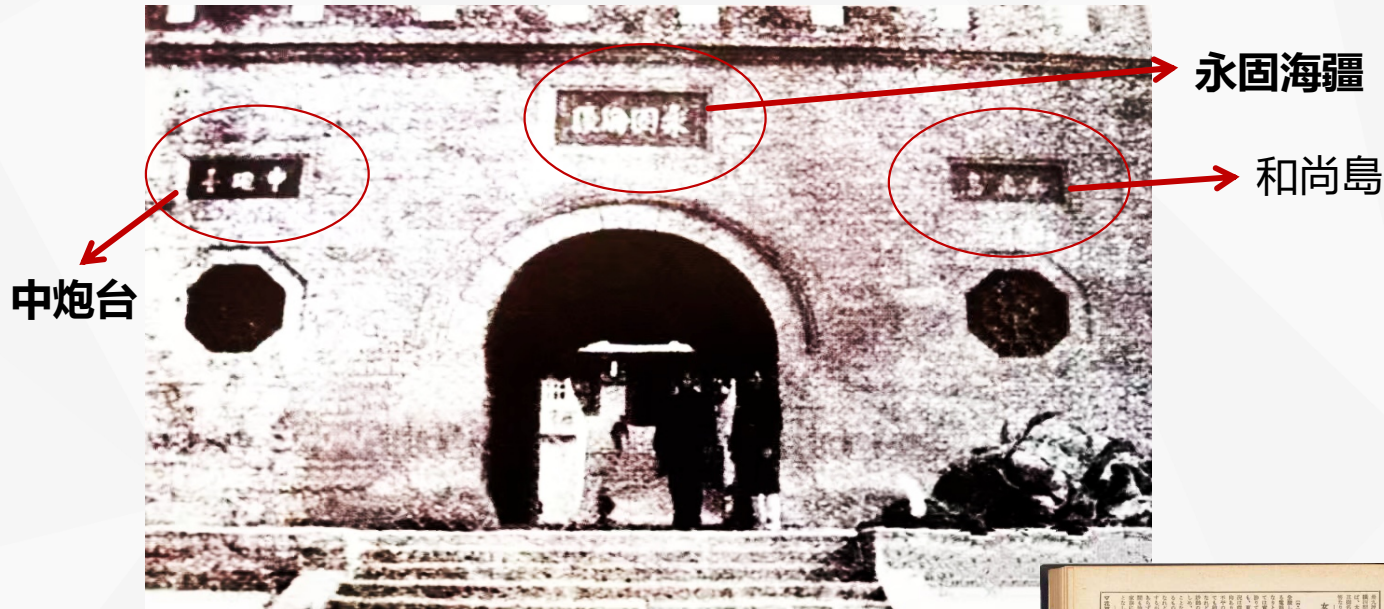


報告者：張毅



04

# 大連湾和尚島中砲台石版



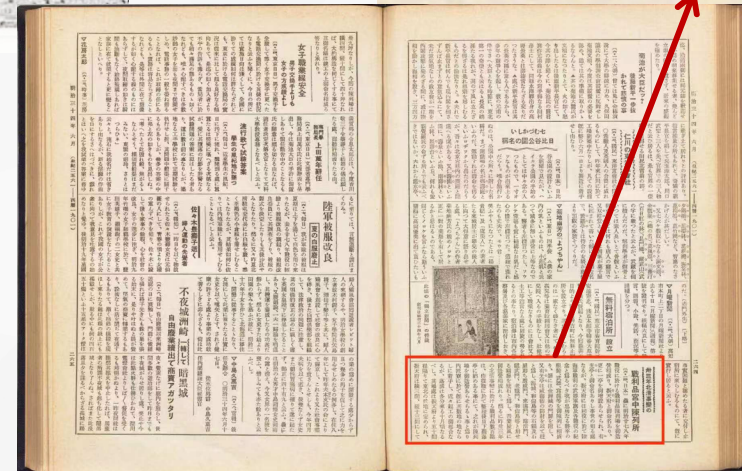
服裝、武器、寫眞等を御陳列に相成り、扉は金洲城の門扉を附し、又○有○光○亭○は威海衛の防材を以て柱と爲し、海城、和尚島等の石額及石扉即ち廣威門、來遠門、臨清門、鎮武門、老龍門、和尚島等と刻せる額扉を壁石と爲し、吾妻屋風に御造營相成れり。然るに昨卅三年の北清事變に於ける戦利品數百點は、侍從職に於て整理後目下觀瀑亭に納めある事にて、之れが陳列

現所在地：日本皇居 振天府有光亭

元の場所：大連湾和尚島

報告者：張毅

出典：『新聞集成明治編年史』



05

# 「震出東方」石版



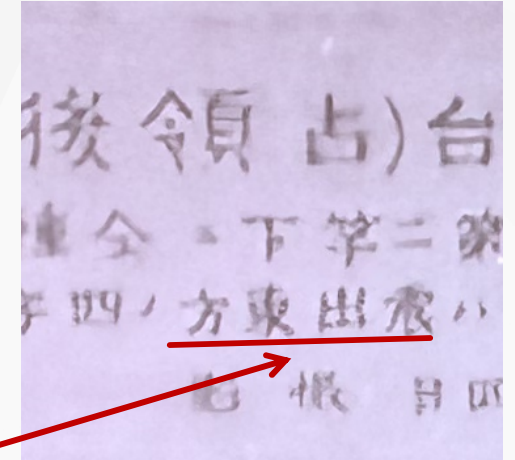
現所在地：日本の靖国神社

東海林次男氏が2024年に日本の靖国神社内で発見した、旅順の老蛎嘴にあった「東方」の石扁。

報告者：東海林 次男

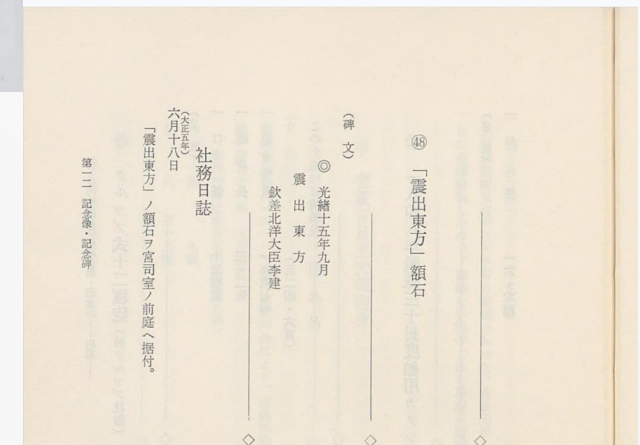


元の場所：旅順老蛎嘴炮台



報告者：李怀武

日中共同発見者：東海林次男、李懷武、隋生



出典：『靖国神社百年史』



## 「震出東方」石版の詳細展示



報告者：大連城記  
画像提供：張毅



2014年5月30日、中共武漢市委機関報《長江日報》发表一篇文章，题目是甲午战争后日军将李鸿章手书“海军公所”匾藏于靖国神社。提供这一重要线索的是武汉大学教授向虎雏，他的祖父向岩为湖北汉川人，1905年东渡日本学习军事，次年参加中国同盟会。1908年回国，1911年参加辛亥革命，曾任鄂军第八师参谋长。向岩在日本学习期间，于1906年6月1日，给父亲的家书中讲述了他日本目睹天皇阅兵、例祭战亡军士等。家书中披露，靖国神社内藏甲午之役所夺于中国之物最多，并有海军公所四字之匾额，系李鸿章手题者。这封家书长达12页，至今保护完好。

1906年是甲午战争后第12个年头，向岩在靖国神社里看到海军公所的匾额是真实可信的，因为那时所谓战利品大都存放在靖国神社里。后来，重要的“战利品”存放在日本皇官吹上御苑南部的建安府里。当年如果不是向虎在日本求学期间参观靖国神社，看到了匾额，那么这块见证了北海军兴衰史的匾额的下落就是一个永远的谜。



威海刘公岛海军公所旧址

2018年，威海研究甲午战争史专家孙建军先生来旅顺，谈起海军公所的匾额，得知威海刘公岛上的海军公所旧址悬挂匾额是一个复制品，具有文物价值的原海军公所老匾额下落不明。



### 元の場所：旅順北洋水師海軍公所 報告者：劉勇

1894年に日本軍が旅順を占領した後、旅順北洋水師海軍公所の扁額が日本へ略奪され、現在は靖国神社の収蔵庫に保管されている。

### 現所在地：文字説明 報告者：李華家

2014年5月30日、中国共産党中央委員会武漢市委員会の機関紙『長江日報』は、「日清戦争後、日本軍が李鴻章の筆による『海軍公所』の扁額を靖国神社に隠した」という題の記事を掲載した。この重要な手がかりを提供したのは、武漢大学の教授・向虎雛氏である。彼の祖父・向岩は湖北省漢川県の出身で、1905年に日本へ渡り軍事を学び、翌年に中国同盟会に参加した。1908年に帰国し、1911年には辛亥革命に参加、鄂軍第八師参謀長を務めた。向岩は日本留学中の1906年6月1日、父親宛ての家書の中で、日本で天皇の阅兵や戦没兵士の例祭を目撃したことを記している。その家書の中で、靖国神社には日清戦争で中国から奪った物が最も多く収められており、その中に李鴻章直筆の「海軍公所」という四文字の扁額があることが明らかにされている。この家書は12ページに及び、現在も完全な形で保存されている。



# 日清戦争時に流失した 文化財の発見

◆ 石獅子

---



01

# 石獅子



現所在地：日本靖国神社鳥居

1895年、海城の三学寺にあった石獅子が日本に略奪され、現在、日本の靖国神社の鳥居のそばに安置されています。

出典：『点石斎画報』



元の場所：海城三学寺



# 日露戦争時に流出した文化財

◆ 唐鴻胪井碑

---



01

## 唐鴻臚井碑/亭

1908年に日本皇室に略奪された唐鴻臚井の碑（または碑亭）



旅順にあった唐の鴻臚井碑/亭の写真



日本皇居の建安府にある唐の鴻臚井碑/亭の写真



## 大連714ボランティア会と鴻臚書庫による「鴻臚井碑」返還要求活動の記録



大连发声：敦促日本 还我国宝

北方行 2014年11月23日 08:31 听全文

快速关注点击蓝色↑大连国学网↑↑微信关注即可

公众账号ID: dlguoxue



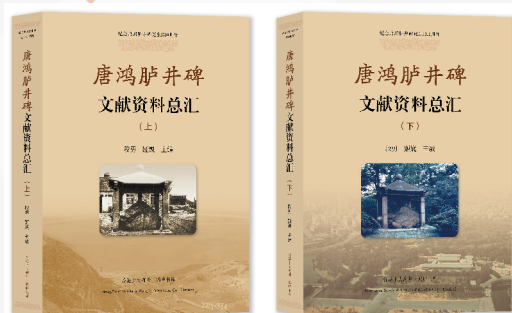
日本驻大连领事办公室

< 要求日本归还鸿臚井刻石的照会 > 已于2014年11月21日13点50分从中华唐鸿臚井刻石研究会大连课题组办公室递往日本国驻沈阳总领事馆常驻大连领事办公室。



## 03

# 《唐鴻臚井碑・文献資料総覧》



## 本书编委会

顾问 韩树英

主编 段勇 姬巍

副主编 陈文平 王振芬 李玉君 杜凤刚

编委 (按姓氏笔画排序)

于建军 王仁富 王志刚 王艳霞 王维民 王锦思  
刘俊勇 李永辉 杨岳有 杨道立 杨谦 张春筠  
姚义田 高山 黄明超 童增 [英] Mr. White W.  
[日] 一瀬敬一郎

编辑 刘春霞 牛梦沅 刘勇 赵毓 王德亮 尤小羽



大連714ボランティア協会および鴻臚書庫は、上海大学中国海外文物研究センターと協力し、唐鴻臚井碑を最も主要な研究対象としています。民間の関連する熱心な人々や団体と連携し、日本の中国文物返還促進会との学术交流を推進するとともに、唐鴻臚井碑に関連する写真、公文書、文献資料を幅広く収集してきました。

その結果、顕著な成果が得られ、これまでに1,000万字を超える文字資料と画像資料を蓄積しました。そして、鴻臚井碑建立1310周年にあたる2024年12月21日、これらを編集した『唐鴻臚井碑・文献資料総覧』を正式に出版しました。

また、関連する研究も深く進められており、唐鴻臚井碑の本体、略奪された時期、現状と正確な位置、日本側の公文書・文献の記載、主要な追跡・返還の罫の回避、日本における法的属性、先行研究の誤りの訂正といった多岐にわたる分野において、すでに一連の新たな成果を収め、現在も継続して成果を上げ続けています。



# ありがとうございます！

---

編集：劉春霞、劉勇、張毅

編審：姫魏

大連714ボランティア会及び鴻臚書庫

2024年9月22日